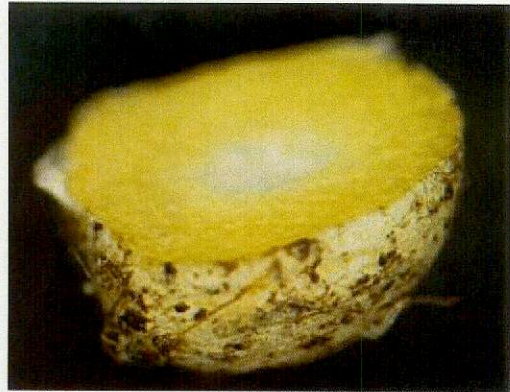


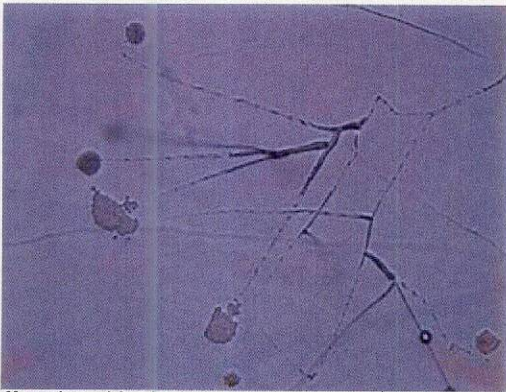
PL. 7 生物相調査 菌類 (接合菌類・地衣類)



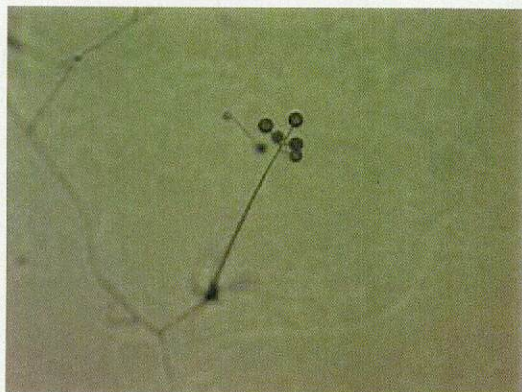
Endogone incrassata (アツギケカビ科)
日本初記録種. 他には北米の針葉樹林等から知られる. 撮影: 出川



Endogone incrassata (アツギケカビ科)
左の写真の拡大. 撮影: 出川



Mortierella bainieri (クサレカビ科)
土壌生の代表的な微小菌類. 撮影: 出川



Mortierella exigua (クサレカビ科)
土壌生の代表的な微小菌類. 撮影: 出川



コフキハリガネキノリ
国内の既知産地は長野県の4ヵ所のみ. St. 2で確認. 撮影: 原田



コウシュウシロモジゴケ
国内の既知産地は山梨県周辺の4ヵ所のみ. St. 3で確認. 撮影: 原田



ミヤマハナゴケを中心とする樹状地衣群落 (St. 2)
共通調査地点中で最も地衣類相が豊富であった. 撮影: 原田



富士山頂の岩上を彩るロウソクゴケモドキ
日本の高山帯としては地衣類は少ない. 撮影: 原田

PL. 8 生物相調査 脊椎動物 (哺乳類)



ツキノワグマ (St. 7 山地帯二次草原) (クマ科)
撮影は山梨県環境科学研究所プロジェクト研究 (2001 年)



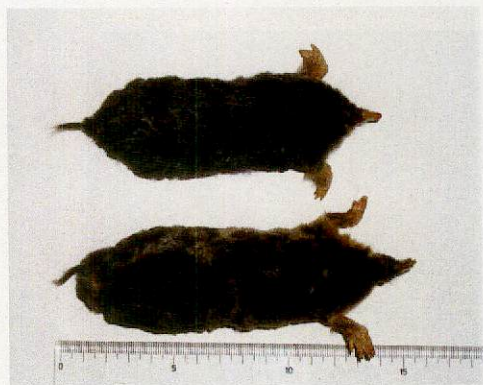
カモシカ (St. 1 森林限界 撮影は林内) (ウシ科)
高山・亜高山のカラマツ林などを中心に生活している。撮影：上田



キツネ (St. 7 山地帯二次草原) (イヌ科)
かなり人に馴れており餌付けされている可能性もある。撮影：瀬子



テン (St. 3 亜高山帯シラビソ林) (イタチ科)
富士北麓に最も広い分布をもつ哺乳類の1種。撮影：上田



アズマモグラ (上) とコウベモグラ (下) (モグラ科)
富士北麓地域は溶岩流が両種の分布境界となっている。撮影：白石



ヒメヒミズ (モグラ科)
溶岩流上に本種が低標高まで分布しているのも富士山の特徴。撮影：白石



キクガシラコウモリ (キクガシラコウモリ科)
溶岩洞と豊かな森が日本有数のコウモリの多様性を支える。撮影：白石



ヤマネ (ヤマネ科)
山地帯から亜高山帯まで分布する富士山を代表する哺乳類の一種。撮影：瀬子

PL. 9 生物相調査 脊椎動物（鳥類・爬虫類・両生類）



ルリビタキ（ヒタキ科）

メボソムシクイとともに夏季の亜高山帯の優占種。撮影：白石



キビタキ（ヒタキ科）

山地帯に代表的な夏鳥。撮影：白石



ノビタキ（ヒタキ科）

山地帯の草原に多い。草原には様々な鳥類が訪れる。撮影：白石



オオコノハズク（フクロウ科）

事故死した個体を拾得した。富士山麓は夜行性猛禽類も多い。撮影：白石



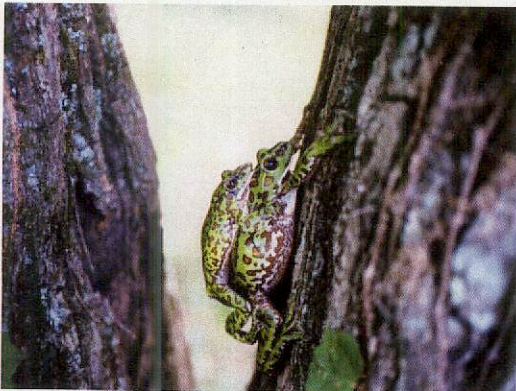
アオダイショウ（ナミヘビ科）

標高1,000m付近での確認が多い。事故死もみられる。撮影：渡辺通人



アズマヒキガエル（ヒキガエル科）

登山道の凹地に一時的にできた水溜りから顔を出した。撮影：篠田



モリアオガエル（アオガエル科）

人工池に産卵に向かうペア。撮影：湯本



シュレーゲルアオガエル（アオガエル科）

水田に多い種だが山梨県最標高記録となる1,370m地点で確認。撮影：渡辺通人